「諍い」から探る「共生」の方途　　2011.06.23

與那覇潤（日本文化学部、研究室 G708）
yonaha@jps.aichi-pu.ac.jp

第 3 回講演　参考文献リスト

これからの「アジア」の話をしよう
「非西洋型共生」の可能性と課題

①宮崎市定『アジア史論』中公クラシックス、2002
②宮島博史「儒教的近代としての東アジア『近世』」『岩波講座東アジア近現代通史 1　東アジア世界の近代　19 世紀』岩波書店、2010［220.7/H55/1］

…アジアは決して「後進地域」ではなく、古代四大文明の所在地を考えればわかるように本来は「先進地域」であって、むしろヨーロッパがアジアを“追い抜いた”19-20 世紀の 200 年間の方が特殊な時代だったといえる。①は戦時中から「西アジア最先進地域説」を提唱した、空前絶後の独創的世界史家のエッセンス、その発想は②にも示されるように、「複数の近代論」となって現在の歴史学の最前線に甦っている。

③岸本美緒「東アジア・東南アジア伝統社会の形成」『岩波講座世界歴史 13　東アジア・東南アジア伝統社会の形成　16-18 世紀』岩波書店、1998［209/13/414］
④岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ、2011［319.22/O42］

…その意味で私たちが生きているのは、19 世紀に輸入された「西洋近代」以上に、16 世紀以降に確定された各地域の伝統ないし「近世」である。③はその最も包括的な要約、④も同様に日本と中国の「近世」がいかに対照的だったかを論じつつ、いわゆる「反日」問題も近世を知らずには解けないことを示す。

⑤網野善彦・谷川道雄『交感する中世　日本史と中国史の対話』洋泉社 MC 新書、2010（原著 1988）
⑥渡辺京二『日本近世の起源　戦国乱世から徳川の平和へ』同、2008（原著 2004）［210.47/W46］

…中世とは、日本も中国＝大陸アジアと同様の「近世」に類似していた時代であり、戦国時代を収束させた“パクス・トクガワーナ”とはそこからの離脱だった。⑤は最後のカリスマ的歴史学者が名古屋大学時代の同僚との対話を通じて自らの歴史観を語り、⑥は同じ現象に真逆の政治的立場から切り結ぶ。

⑦小島毅『東アジアの儒教と礼』山川世界史リブレット、2004［124//193］
⑧溝口雄三・池田知久・小島毅『中国思想史』東京大学出版会、2007
⑨渡辺浩『日本政治思想史 17-19 世紀』同、2010［311.21/W46］

…しかしその近世の段階から、思想レベルでは国境を越えた伝搬と交流があり、それはやがて日中両国の「近代」の形をも準備してゆく。アジア論に必須の儒教史の驚異的に簡明な要約が⑦、もう一歩専門的に学ぶなら⑧、それと元来「非儒教的」だった徳川文明との干渉や葛藤を明治初期まで通覧するのが⑨。

⑩茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』山川世界史リブレット、1997［220//366］
⑪三谷博・並木頼寿・月脚達彦編『大人のための近現代史 19 世紀編』東京大学出版会、2009［220/O86］
⑫與那覇潤『翻訳の政治学　近代東アジア世界の形成と日琉関係の変容』岩波書店、2009［教著 319.2/Y82］

…19 世紀以降の「近代化＝西洋化」とは、東アジア独自の近世の国際関係においては可能となっていた「曖昧な共存」を不可能にし、破壊する過程でもあった。⑩はその変容過程に関する簡潔な概説、⑪は上述の観点を踏まえた最新の東アジア通史、⑫はそのプロセスを沖縄問題に則して綴った講演者の博士論文。

⑬佐藤俊樹『近代・組織・資本主義　日本と西欧における近代の地平』ミネルヴァ書房、1993［書庫 362.06/Sa85］

⑭與那覇潤『帝国の残影　兵士・小津安二郎の昭和史』NTT 出版、2011［展示 778.21/O99］

…しかし、私たちの社会は本当に「近代化＝西洋化」したといえるのか？というのは、悲惨な敗戦に帰結した 20 世紀中盤以降、日本の研究者の頭に憑りついて離れない問いであり、恐らく答えは「否」だった。⑬はウェーバー社会学を用いてどこで西欧と日本の「近代化」の内実が分岐したかを探究した決定版、講演者の近著である⑭はむしろ、近代の抗争を日本が「近世」の中華帝国の幻影を追った軌跡として描く。

⑮高山宏『近代文化史入門 超英文学講義』講談社学術文庫、2007（原著 2000）［930.25/Ta56］

⑯山下範久『現代帝国論　人類史の中のグローバリゼーション』NHK ブックス、2008［080/N69/1124］

…そして、そもそもその「西洋近代」自体が確固たる基盤があるというより、混淆した社会を統合するために“基盤があるふりをしている”ものに過ぎなかった。⑮は文学や視覚芸術の歴史、⑯は社会科学系の理論研究のレビューを通じて、「一義性」「有意味性」に立脚する（と称した）西洋近代の虚構性を暴く。

⑰井筒俊彦『イスラーム文化　その根底にあるもの』岩波文庫、1991（原著 1981）［080/185-1/22J］

⑱鈴木董『オスマン帝国　イスラム世界の「柔らかい専制」』講談社現代新書、1992

…アジアを論じるときに避けて通れないのは「儒教」のみでなく「イスラーム」の問題。⑰は①と同様、日本が世界に誇る碩学がイスラームとはなにか、その“理念”を平明に語った講演の記録。⑱は逆に、“現存した”イスラーム王朝の事例からそのメカニズムのエッセンスを縮約した好著であり、ともにイスラームもまた西欧近代の国際体系とは逆の、「曖昧な共存体制」を提供するシステムだったことを解明している。

⑲リチャード・ローティ『アメリカ未完のプロジェクト　20 世紀アメリカにおける左翼思想』小澤照彦訳、晃洋書房、2000（原著 1998）［309.353/R69］

⑳ジャック・デリダ『生きることを学ぶ、終に』鵜飼哲訳、みすず書房、2005（原著同年）

…理念としての儒教やイスラームの崇高性と、実際の社会体制に存在する様々な難題とのギャップは、実は理想としての「ヨーロッパ近代」（自由、平等、友愛…）とその現実（人種差別、植民地支配、経済格差…）の間にある乖離に等しかった。そのことにどう向き合うべきか、ともに 21 世紀初頭に亡くなった米⑲・仏⑳の代表的哲学者が、アメリカニズムやヨーロッパ統合の“希望”が持つ可能性を語った遺言の書。

映像で学ぶなら…

A. 宮崎駿監督『もののけ姫』1997
B. 黒澤明監督『七人の侍』1954［DVD//57］
C. シドニー・フランクリン監督『大地』1937
D. 陳凱歌監督『さらば、わが愛／覇王別姫』1993［DVD//12］
E. NHK 放映『映像の世紀 10　民族の悲劇果てしなく』1996［DVD/10/747, VHS/19/302］

…A は事実上、⑤の網野善彦の中世史観が原作で、網野と宮崎の対談は『歴史と出会う』（洋泉社新書 y、2000［210.04/A45］）に収録。B は日本映画の古典中の古典だが、⑥で描かれた戦国時代から日本的な「近世」が立ち上がる瞬間の映像化。C はパール・バックのノーベル文学賞受賞作（岩波文庫［080/320-1/22I］、新潮文庫［080/238a/5］ほか）が原作で、映画もアカデミー主演女優賞・撮影賞の隠れた秀作、⑭が描く日中戦争下の日本でも広く鑑賞された。D は中国映画ルネサンスを告げた名作で、清末から文革期までの中国近現代史がすべてわかる最高の素材。E は近現代史ドキュメンタリーの定番、近代西洋が世界に拡散・相互連鎖させていった「ナショナリズム」という妖怪の恐ろしさを、生々しく鮮烈に伝える本巻が最高峰。